

FLORA KANAGAWA

FEB. 20. 1982

No. 11

神奈川県植物誌調査会ニュース 第11号

231 横浜市中区南仲通り5-60 神奈川県立博物館内
 神奈川県植物誌調査会(振替口座 横浜 10195)
 TEL 045-201-0926

F438-S

カワラノギク

Aster kantoensis Kitamura



F438-S

カワラノギク

Aster kantoensis Kitamura

3 8 9 41 42 43 45 47 50 51 53 65 69 70 71 76 77

カワラノギクの分布

カワラノギクは河原に特有のもですが、砂利採取
 やダム の 築造による流水の変化などで次第に減少して

います。上記のほか戸塚(久内清考, 1914)の記録
 もあります。上のリストはカワラノギクの産するメッ
 シュの一覧を打ち出したものです。

偉大な大谷茂先生の足跡をしのぶ

石渡 治 一

大谷茂先生がおなくなりになってもう1年になります。いつも学究第1，後進を指導し，柔かく物静かにゆっくり，そしてにこやかに話される先生でした。

植物についてだけでなく，いろいろの面でご指導をいただいた数かずのことを思い出しながら，いざさか先生をしのびたいと思います。

植物会でお話をされるときは必ず，生の実物を標本をもって，比較検討を旨とされました。

「さあ，これを順に回してよく見てください。どこにちがいがあるか，どこを見たらよいかね。」にこやかなお顔，一わかりましたか〜とまたにこやかに。

いつどんな時でも決してむずかしい顔，いかめしい顔をなされなかった先生でした。

言葉と言葉の区切りをはっきりつけ，静かな声で話されました。立ってお話をされる時は，何となしに貧乏ゆすりのように（ごめんなさい）体を動かしながら笑顔で静かに静かに話されたものでした。

後進のために，若かりし日の勉学のことをよくお話になりました。

学問というものはね，基礎からしっかりやらないといけません。私たちは泊り込みで勉強したものです。昼に先生から講義を受け，夜は原書を読みました。わかるまでとことん勉強したものです。植物・動物・鉱物・生理衛生どれもよく勉強しましたよ。……

昔は胴乱でなく柳行李を持って山へ行ったものです。山の中を2日も3日も行李を持ち歩くのは大変なものでした。新聞紙の入手も一苦労でね，何回も何回も取り替えては天日で乾かして，大事に使ったものでした。鉱物採集では，行李にいっぱい重さは大変なもので，それを里まで運び出すのにえらい苦労をしたものでしたよ。……こんな調子で日光から金精峠・尾瀬方面へかけての採集旅行の苦労話をされました。

君達は楽に勉強しているのだからもっとしっかりやれよ，という含みでお話されたのかな，今になってそんな気もします。以下先生の歩まれたあとをたどってみたいと思います。

生年月日 明治33年（1900）1月14日

出生地 神奈川県都筑郡都田村池辺中里3069 その後，横浜市に編入され，横浜市港北区池辺町3019となり現在は緑区池辺町3069となっています。

大正8年（1919）3月 神奈川県師範学校本科第1部卒業，小学校本科正教員免許状受領，第1607号。

大正8年 3月 神奈川県橘樹郡第1稲田尋常小学校訓導。

大正8年7月12日 陸軍歩兵第1連隊で6週間現役兵服務。国民軍幹部適任証受領。

大正8年9月 横浜植物会に入会。

大正9年（1920）4月 植物研究雑誌会員。

大正9年～10年（1920～1921）慶応義塾大学医学部生物学教室において岡村周諦博士指導の植物鏡検実習を受ける。

大正9年9月以降，毎月第2日曜，慶応義塾大学医学部生物学教室で植物分類学講義と各科代表植物の実習指導を岡村周諦博士より受ける。

（Text，Heinrich Gustav Adolph Engler）

※当時，慶応の岡村先生の講習や講義は第1級のもので，植物学を志す者は一度は先生の講義を受けたいとねがったものです。

大正10年（1921）8月 日光経由，尾瀬の植物調査，日光→湯本→金精峠→丸沼→大尻沼→（野営）→白根湿泉→戸倉→三平峠→尾瀬沼→長蔵小屋→湿原→燧岳3泊4日。1行4名（大谷，江森貫一，渡辺義雄，藤波健次）夜中にクマが出て大さわぎをしたそうです。

大正11年（1922）6月 兼任，神奈川県橘樹郡稲田村立第1女子実業補習学校助教諭。

大正12年（1923）3月 神奈川県橘樹郡尋常高等鶴見小学校訓導。

※この年9月1日，関東大震災がありました，先生から地震の話をついた記憶がありません。

大正13年（1924）3月 神奈川県橘樹郡鶴見尋常小学校訓導。

※昔は学校が変わるたびに給料が増額になりました。先生は同輩に比し，群を抜いて高給であったろうと推察されます。

大正14年（1925）7月 文部省試験検定（文検）により，師範学校・中学校・高等女学校教員免許状（博物科の内植物）受領。（し第7016号）

※文検をパスすることは至難なことで，明せきな頭脳と，たいへんな努力の結晶です。後に記すように先生は動物・生理衛生・鉱物と次つぎに免許を取られました。誠に驚異的なことであると思います。

大正15年（1926）3月 神奈川県横浜市西前尋常高等小学校訓導，但，唱歌科勤務。

※このことについては先生から伺った記憶がありません。昔は音楽科を唱歌科といいましたが，その専科勤務ですから，よほどの技術をお持ちであったろうことが推察されます。

大正15年3月 兼任，神奈川県立工業学校教諭。

大正15年8月 東京大学付属三崎臨海実験所で，谷津直彦博士指導による文部省主催の臨海実習を行う。

昭和2年（1927）4月3日 武州北足立郡新倉村膝折付近の採集・東京植物同好会・牧野富太郎先生指導。

昭和2年4月24日 武州北足立郡土合村田島が原にサクランソウを見に行く。江森貫一氏案内。

※当時のサクランソウについてはよくお話されました。

昭和2年8月 慶応義塾大学医学部生理学教室で，加藤元一教授の生理学実習を受く。

昭和2年10月以降，毎月第1木曜（3ヶ年）東京水産講習所所長，岡村金太郎博士（目白のお宅で）につき，海草学の分類・実習の指導を受く。

※水産講習所は後の水産大学で，岡村先生は海草学の第1人者。何回も先生のお宅を尋ねた末に，ゆるされて教を受けることができたというお話でした。

それについても先生の向学心・熱意・努力が並たいていのものでなく，それを汲みとられた岡村先生が，ご家庭で教えられるようになったのだと思います。

昭和3年(1928)2月 神奈川県立工業学校教諭。

昭和4年(1929)5月 以降、毎月第3日曜日の、午後6時～10時、東京都北豊島郡大泉町上土支田557牧野富太郎博士のお宅で、单子葉植物の系統的分類学の指導を受く(3ヶ年)

※これもなかなか大変なことであつたらうと思います。が、世界的な分類学者から直接教えを受ける学求の徒の喜びが、しみじみとわかります。

昭和5年(1930)5月26日 分家届出、同日受付、

昭和5年5月28日 初代夫人と婚姻届出。

昭和5年7月30日 文部省試験検定(文検)により師範学校・中学校・高等女学校教員免許状(博物科の内動物)受領 し第10640号。

昭和7年(1932) 趣味の植物学会“植物趣味の会”発足に参加、後に東亜植物学会となり、特別会員・地区代表となる。

昭和7年7月25日 文部省試験検定(文検)により師範学校・中学校・高等女学校教員免許状(博物科の内生理及衛生)受領 し第11936号

※次から次へと文検にパス。脳のできがちがうのではないかとさえ思えますが、たいへんな努力をなされたことが忍ばれます。

昭和7年8月2日～10日 秩父西部(小鹿野・二子山一ほうかい石山・坂本・入町峠・金山・中津川・栃木)鉱物採集。

昭和7年8月11日～13日 筑波伝正寺に鉱物採集。※秩父山中で9日間の採集、その労力はたいへんなものだったでしょうが、とって返すように筑波へ3日間もの採集行。沸ふつわく学問への情熱、たくましい体力に、ただただ感嘆せずにはおられません。

昭和7年8月 多湖実輝(一高の植物助手)氏の紹介により、東京第一高等学校教授坪谷幸六博士の岩石の指導を受く。

昭和8年(1933)8月 東京成徳高等学校で鉱床学を学ぶ。

昭和9年(1934)8月 東京武蔵野高等学校で鉱物の物理化学的性質の実習を和田八重造教授より受ける。

昭和9年10月17日 群馬県妙義山植物調査。

昭和10年(1935)8月5日 文部省試験検定(文検)により師範学校・中学校・高等女学校教員免許状(鉱物、含一般理科)受領、し第1367号

※文検、植物・動物から生理衛生・鉱物・一般理科と息つく暇もない短日時の免許取得。一科でも並なみならぬ努力の結果、ようやく入手することのできた難業でした。現在の大学入試などは到底その比ではない易いことであろう。先生であれば司法試験でさえも、易いことであつたと思われま。

昭和10年8月 東京高師教授藤木治義博士につき、岡山県成羽の中世代化石、並に準平原を視察。

昭和11年(1936)6月 神奈川県立工業青年学校指導員。

昭和11年8月22日 公立高等女学校教諭に任ず。高等官七等を以て待遇せらる。

昭和11年8月22日 横須賀市立実科高等女学校教諭(昭和12年に横須賀市立高等女学校と改称された)

昭和12年(1937)年9月9日～12日 三重県の植物調査。賢島→御座→浜島→五ヶ所浦→神前浦→熊野灘～船で～木ノ本(熊野市)→和歌山県新宮・浮島→穂原村・鬼ヶ城

昭和13年(1938)6月15日 叙従7位

昭和13年11月1日 高等官6等を以て待遇

昭和13年11月15日 叙正7位

昭和13年12月 以降 横浜植物会で、伊藤洋先生による羊歯植物分類学受講(5回)

テキスト：日本しだ類早わかり、伊藤洋先生の作製によるプリント使用。

※植物全般にわたって非常に深い知識をお持ちの先生でしたが、しだ植物については殊の外深い知識と興味をお持ちでした。

昭和15年(1940)8月1日～15日 北海道大学理学部植物学教室で、文部省主催の「細胞学・遺伝学」の講習を受ける。

昭和15年10月10日 同居しておられた、初代夫人の厳父八木下栄蔵氏死去。

昭和16年(1941)4月16日 公立実業学校教諭に任ず。高等官5等を以て待遇。(内閣)

同、横浜市立女子高等専修学校教諭に補す(文部省)

昭和17年(1942)4月2日 横浜市臨時教員講習会講師。(横浜市)

同、国民学校教員臨時検定試験委員。(神奈川県)

昭和18年(1943)4月15日 横浜市臨時教員講習会講師。(横浜市)

昭和19年(1944)4月1日 横浜市立第二女子商業学校教諭に補す。(文部省)

同、横浜市立第一女子商業学校教授を嘱託(横浜市)

同、4月17日 横浜市臨時教員講習会講師

同、5月15日 願により嘱託を解く(第一女子商業)

同、同 横浜市立第一女子商業学校教諭に兼補

昭和20年(1945)5月29日 横浜空襲にあい全焼。

※この時、先生が集めもっておられた標本、図書、資料などの貴重なものを焼失。後年折にふれて残念がっておられました。

昭和20年6月 横浜市港北区池辺町の生家に疎開。

昭和20年11月30日 願により兼任を解く。

昭和20年11月30日 横浜市立第一女子商業学校教諭に補す。(文部省)

昭和20年11月30日 横浜市立第二女子商業学校教授を嘱託す。(横浜市)

昭和21年(1946)7月24日 願により嘱託を解く。

同、同 願により本官を免す。

昭和21年8月17日 任横須賀市視学、教育部学務課学事係長兼務。(横須賀市)

第2回、文部省主催、視学官ワークショップに参加。(会場 栃木県)

※終戦直後占領下の教育制度改変、教育行政にたずさわり、身心とも大変なことであつたと思います。

昭和21年8月28日 教職適格者と判定(女301号)

※各道府県別に、教職適格審査委員会を設け、教職員の戦中の状況をチェック、適否の判別を行ない、不適格と判定された者は教職から追放されたものです。

昭和22年(1947)3月11日 公職適格者と判定さる。
(賀73号)神奈川県知事。

昭和22年7月14日 教育部学務課指導係長を命ずる。
(横須賀市)

昭和22年9月30日 願により職務を免ずる。

昭和22年9月30日 地方教官に任ずる 三級に叙す。
(神奈川県)

同、同 横須賀市立不入斗中学校長に補する。(神奈川県)

昭和22年12月5日 二級に陞叙する。(内閣)

昭和23年(1948)7月7日 初代夫人死去。

昭和24年(1949)9月1日

小学校二級普通免許状受領(3757)神奈川県教委。

中学校二級普通免許状受領(国語・社会)県教委。

中学校二級普通免許状受領(理科)県教委。

高等学校二級普通免許状受領(理科・数学)県教委。

※免許法の改正により、講習そのほかの何等かの措置により、従来所有した免許状を切り替えなければならなくなった。これも教育制度改革の一連のものです。

昭和24年9月1日 三浦半島研究会が結成され、同時に選ばれて副会長となる。

横須賀市郷土文化研究室員となる。

昭和25年(1950)4月12日 横須賀市不入斗町3-79に寄留。

昭和25年11月9日 神奈川県の花審査員を委嘱さる。

※昭和26年1月23日 県の花ヤマユリを制定す。

昭和26年(1951)3月25日 横須賀市佐野町3-41へ

※広大な敷地で、先生が各地から集められた珍しい植物・貴重な植物がたくさん栽植されています。

昭和26年5月1日 神奈川県立三崎水産高等学校長に補す。(県教委)

昭和26年4月29日 久枝夫人と結婚

昭和26年8月11日

神奈川県公立学校教員に任命する。二級に叙す。

神奈川県立横須賀高等学校教諭に補す。

兼ねて神奈川県教育研究所所員を命ずる。(県教委)

昭和27年(1952)2月14日 第8回教育指導者講習(IFEL)において、中等学校管理の課程を修了。

米人講師 Robert R. Vance 東京教育大学長。

昭和27年2月20日 大学の単位修得証明書を受く。

「中等学校管理6単位」 東京教育大学長。

※IFELも戦後教育制度改革に伴う一断面で、地方教育界の重要人物が選ばれて、受講することになったものである。IFELは先生の心の中に思い出として生きていたようで、時どき話の端にもらしておられました。

昭和27年4月1日 高座三浦地方教育調査委員委嘱

昭昭27年5月1日

神奈川県公立学校長を任命する。二級に叙する。

神奈川県三浦郡逗子町立逗子中学校長に補する。

昭和27年6月15日 千葉県中部茂原湿地植物調査。

※この時、耕地の中にミミカグサをはじめ、いろいろ食虫植物がたくさんありました。天然記念物に指定されたところもありました。

昭和28年(1953)7月10日 神奈川県教育職員免許法認定講習、28年度夏季講座講師を委嘱する。県教委

昭和28年10月20日 中学校一級普通免許状(理科)同 校長一級普通免許状受領(県教委)

昭和29年(1954)4月1日 横須賀市博物館研究員を委嘱する。(横須賀市教委)

昭和29年4月15日 市制施行、逗子市立逗子中学校と改称。

昭和29年9月11日 居住地を「吐月山晴櫻荘」と命名、命名者：鎌倉市山ノ内462白雲庵住職磯谷惠秀師。※仲秋明月の夜命名されたとのこと。高台にあり、南の開けたお宅は、たしかに吐月山の趣があります。

昭和30年(1955)11月28日 神奈川県博物館協会・自然科学部会長となる。

昭和31年(1956)11月19日~25日 長野県の植物調査。

昭和31年11月26日 教科用図書検定調査審議会(教科用図書検定調査分科審議会)委員を委嘱・文部大臣

昭和32年(1957)7月28日 日本シダの会員となる。

昭和32年7月31日 三重県南部尾鷲周辺の植物調査

・和歌山県那智→新宮→潮の岬→白浜・8月6日まで。

※山岡先生(当時多摩高校長)の御親せきで、尾鷲の漁業組合長さん宅に泊めていただきました。案内者をつけていただき、尾鷲の山を有効に見ることができました。主にシダ類を見ました。尾鷲の公民館長若葉さん方で栽培されているシダを見せていただきながら、尾鷲の植物についていろいろお話を伺いました。

丁度この時ハッカ入りタバコが発売になりました。当時はヘビー・スモーカーであった大谷先生は、このことをよく御存知で、早速尾鷲で買い求めました。

昭和32年11月1日 教科用図書検定調査審議会委員を委嘱する、任期は昭和34年10月31日まで・文部大臣

昭和33年8月14日 宮城県栗駒山(須川岳)鳴子峡

・鬼首の植物調査。20日まで。

※7日間の調査行でした。大谷先生の一の関の知人宅に泊めていただき、毎日配車してくださってありがたかった。その上ウナギを十分に賞味させてもらいました。栗駒山のムシトリスミレの群落は見事でした。

昭和34年(1959)3月14日 横須賀植物会発足。会長となる。

※同時に幾つかの会が発足。合同して連合の会をつくりましたが、現在まで引続き活動しているのは、植物会だけです。これは大谷先生というよき指導者があったからです。

昭和34年5月28日 伊豆八幡野来ノ宮神社裏山社叢植物調査。

昭和34年7月31日 1等級24号給を給する。

昭和34年7月31日 辞職を承認する・神奈川県教委

※ここで教育現場を離れた先生は、横須賀市博物館で植物の研究に没頭、後輩の指導に力を入られた。博物館報を通じ多数の論文を発表された。

昭和34年8月1日 横須賀市博物館嘱託(常勤)

横須賀市博物館資料の収集展示に関する業務を嘱託、

昭和34年8月11日~13日 伊豆沼ノ川→白川方面の植物調査。

※営林署の世話になりました。

昭和34年8月16日~21日 宮城県・山形県境の船形山の植物調査。

※前年の栗駒山調査の折の知人宅に泊ってもらいました。車で各所に運んでもらい、時間的にも案内にも大変好都合でした。栗駒山に比べ植物的には単調な山でした。

昭和34年11月3日 教育勤続表彰 (県教委)

昭和34年11月23日 永年勤務者感謝状 (友松会)

昭和35年(1960)4月29日 横浜シダの会発足。

倉田悟先生の指導を受く(昭和43年6月9日21回まで)

※シダは変化があって大変おもしろいし、調べがいがあると常々話しておられました。

後年屋久島や南九州方面のシダに大変関心を示しておられました。

昭和35年5月25日 第8回全国博物館大会委を委嘱。

県教委教育長 鈴木重信

日本博物館協会会長徳川宗敬

県博物館協会会長村田良策

昭和35年8月1日～7日 富山県立山連峰植物調査。

※はじめて人工衛星の成功した年でした。雷鳥荘で、人工衛星が流星のように、ゆっくり一直線に動くのがよく見えました。大変驚き感激したものです。

立山連峰も今日のように楽なものではありませんでした。

高山植物が豊富で、たいへん楽しい山旅でした。富山市教委指導主事山田氏方に前後二泊させてもらいました。採集許可から山の案内図まで大変お世話になりました。

昭和35年10月1日 横須賀市教育委員会技術吏員となる。横須賀市博物館勤務。(横須賀市教委)

昭和36年(1961)3月15日 文化財保護法施行10周年にあたり功労表彰を受ける。(県教委)

昭和37年(1962)3月9日 博物館法施行規則による学芸員の無試験任用に合格し、学芸員となる資格を得る。(証条35号)文部省。

昭和37年5月 植物ニュースの会、会員となる。

昭和37年7月5日 鹿児島県熊本郡尾久島植物調査8月3日まで30日間。8月5日には桜島北東の燃島・土地の人は新島(シンジマ)の植物調査。

(初島・大谷・井口・肥後)の4名。

昭和37年8月25日 埼玉県羽生市三田ヶ谷宝蔵寺沼のムジナモ調査。

昭和38年(1963)1月 野外植物研究会会員となる。

同 1月18日「フロア茨城」終身会員となる。

同 5月28日 第3回伊豆半島自然観察隊、植生班の一員として伊豆半島の植生調査(4日間)

同 6月29日 長野県上伊那郡小野村楡沢天狗原のシダレグリ調査。

同 7月21日 栃木県河内郡上三川町磯川湿地植物調査。※サギソウを嘆賞されました。

同 8月4日 鹿児島市桜島の北東方、燃島(新島)植物調査……第2回目

同 8月15日～19日 鹿児島県大口市周辺～宮之城紫尾山の植物調査。

昭和38年8月22日～26日 鹿児島県大隅半島、垂水・大根占・伊座敷・大中尾・辺塚・稲尾岳・花瀬・田代方面の植物調査。

※いつもながらのことですが、よく体が続くと感じさせられる程、精力的に活動されています。

昭和38年12月10日 川崎市高等学校理科研究会に、三浦半島の自然について講演(高津高校にて)

昭和39年(1964)2月13日 埼玉県羽生市三田ヶ谷宝蔵寺沼のムジナモの第2回調査。

昭和39年4月14日 横浜市中区本牧三之谷、三溪園地内植物調査(三溪園の依頼により)

昭和39年6月1日 横須賀市文化財専門審議会委員を引続き選任される。(頭初より8選)横須賀市教委。

昭和39年7月30日～8月5日まで 鹿児島県熊本郡種子島南種子地区植物調査。

昭和40年(1965)8月7日～13日 鹿児島県熊本郡屋久島植物調査。

昭和41年(1966)5月24日 三溪園の依頼により地内の植物調査(第2回目)

昭和41年7月29日～8月4日 鹿児島県桜島の植物調査。8月11日に再度桜島へ。

昭和41年9月10日 県の木制定審査委員となる。

委員会第1回9月14日 第2回10月24日 決定11月1日決定となる。

昭和42年(1967)2月15日 市制60周年に当り、特別表彰を受く(横須賀市長)

昭和42年8月4日～8日 鹿児島県瓶台山・漆上・宇都方面の植物調査。

昭和42年9月10日 植物手帳(草木愛改題)会員。

昭和42年11月19日 逗子中学校20周年に表彰される。

昭和42年11月29日 統計教育15周年にあたり功労表彰を受ける。(神奈川県)

昭和43年(1968)2月8日 奥湯河原の植物調査。

昭和43年2月28日 再度奥湯河原の植物調査。

昭和43年6月2日 以降毎月1回 団伊玖磨夫妻と三浦半島、県内、県外の植物調査を行う。

昭和43年7月25日～31日 鹿児島県熊本郡屋久島の植物調査。

同、8月5日、鹿児島県薩摩郡宮之城大又国有林の植物調査。

同 8月7日 鹿児島県指宿市池田湖のナンゴクデンジソウ調査。

同、10月22日 自然科学の部で、明治100年表彰を受ける。(神奈川県)

同 11月17日 逗子市PTA20周年に当り感謝状を受く。(逗子市PTA連絡協議会)

※先生が教育機関に御在職中の、格別のお骨おりが、今になって感謝状や表彰状になって、次から次へとあらわれています。

昭和44年(1969)4月1日 学芸員を命ず、市教委。

同、鹿児島植物同好会賛助会員となる。

同、4月13日 猿島植物調査(ヤナギイチゴ健在)

同、5月2日 薬用植物を訪ねる会の下見・三浦。

同、6月30日 辞職を承認する(横須賀市教委の技術吏員の)・横須賀市教委。

昭和44年7月1日 横須賀市博物館における自然科学の調査および研究に関する業務を嘱託(非常勤)(毎年辞令更新)・横須賀市教委。

昭和44年7月29日～8月2日 鹿児島県熊毛郡屋久島植物調査。

同、8月7日～9日 都井岬植物調査。

同、8月20日 鹿児島県指宿・瀧口・尾掛無足神社植物と民俗調査。

昭和45年(1970)3月4日 逗子中学校で卒業記念講演・演題・忘れ得ぬ人びと。

昭和45年4月5日 東京都西多摩郡五日市町、秋川流域の調査。

昭和45年7月16日～18日 鹿児島県(大隅)猿ヶ城～高嶺山植物調査。

同、7月31日～8月3日 熊本県五木五家荘(根拠地・二本杉)植物調査。

※毎年九州の植物を調査されました。前にもふれましたが、特にシダ植物に重点を置いておられました。

先生は飛行機は使われず、いつも往復には特別寝台車を使っておられました。個室でゆっくり勉強ができるよと笑っておられました。

昭和45年11月2日 神奈川県立三崎水産高校30周年式典に当り表彰さる。(式典委員長)

昭和45年11月19日 県立教職員の教養講座(三浦保養所)講師。(以降5回講師となる)

昭和45年11月29日 第5回松沢研究奨励賞受賞

(神奈川県友松会)

昭和46年(1971)2月2日 浦賀双葉団地公民館で婦人会に「身近な植物」について講演。

昭和46年3月28日 神奈川県立青少年センター主催「日曜散歩の会」講師(大楠山・衣笠方面)

昭和46年3月30日 博物館で、鎌倉・逗子・葉山・三浦・横須賀の婦人会代表に「自然と生活」について講演。

昭和46年5月22日 八丈島(団伊玖磨夫妻と共に)植物調査。

昭和46年7月7日 馬場学区公民館婦人学級で、SpiceとHerbについて講演。

昭和46年7月19日～23日 鹿児島県(大隅)高峠・高隈溪谷自然休養林植物調査。

昭和46年7月26日～31日 宮崎県尾鈴山(児湯郡都農町と木城村との境)・鱈塚山(南那珂郡北郷町・北諸県郡三股町・宮崎郡田野町の境)植物調査。

昭和46年11月18日 県教職員三浦保養所で教職員教養講座、講師。

昭和47年(1972)7月28日～昭和48年9月30日までの1年余り入院闘病生活。

※病気回復の後、お元気なお姿を博物館の研究室でお見かけすることができて、誰もが非常にうれしく思いました。

昭和49年(1974)5月16日 逗子市福祉会館で「神武寺および逗子地区の植物」について講演。

昭和49年7月27日 逗子教委・逗子教研共催の研修会で「逗子の植物」について講演。

昭和50年(1975)3月25日 博物館で婦人団体研究会で講演。演題・人間と自然の交流。

昭和50年8月15日 衣笠公民館の高令者教室で「人生と植物」について講演。

昭和50年12月12日 本市博物館で不入斗中学校家庭教育学級に「植物の利用」について講演。

昭和51年(1976)2月20日 文化会館中ホールで、横須賀愛樹運動推進のつどいに講演、演題・樹木への招待一わたくしたちをとりまく樹木。

昭和51年3月4日 久木中学校卒業記念講演(私の歩んだ道)

昭和51年4月24日 横須賀市博物館で講演、演題・南方の自然一屋久島を中心として。

昭和51年7月16日 横須賀市の木・市の花選定懇談会委員。(6月30日付)

同、7月22日 内部打合せ会(候補木・花の選定) 同、11月9日 第2回選定懇談会(決定)

オオシマザクラとハマユウの選定。

昭和51年11月12日 横須賀市愛樹運動推進のつどいで講演、演題・竹林の美。

昭和52年5月4日 横須賀風物百選、選定懇談会委員を委嘱される、5月17日、6月22日、7月15日の3回の委員会で選定。

昭和52年6月8日 横須賀文化をきずく会結成・幹事となる。

昭和53年5月17日 横須賀市田浦緑地利用計画策定委員会委員となる。6月12日・26日・7月17日・8月2日の4回の委員会と6月19日7月29日に現地視察・

昭和53年6月23日 横須賀文化をきずく会例会。

ここまで先生のメモが整理されていきました。その都度克明に記されたものと思います。私たちとかく記録的なことを手許で控えておくことをうかつにし、後日になってあれやこれや捜し物をしがちですが、非凡な先生は常づね身辺がきちんと整理されており、その上ほとんどの事を記憶しておられたのには、いつも驚かされておりました。そして最後に、付記として、植物並に民俗の採集歴は一部分のみ記述した。追てまてみたい、とありました。

なお、大谷茂先生の横博での御活動の業績については、横須賀市博物館資料集 第1号、1978年3月に、大谷 茂学芸員 業績目録としてまとめられています。

昭和55年(1980)9月、健康を害され、闘病生活に入られた先生はいつも、主治医の先生を絶対に信頼されていることを、お伺いするたびに話されました。

食事もうまくたべられるし、暖くなったら退院できるよと話されていました。

暮の中に退院してもよろしいと医師から話があったが、家を多少なおし、ベッドを入れ、それから退院するよ。うれしそうにお話しされました。

年明け昭和56年(1981)の1月24日に退院なされて、御家族おそろいで、退院祝の夕食をとみになされ、その上、お孫さんはじめ皆さんに記念の品をお渡しになり、散会されて後まもなく急逝されるとは。

昭和56年1月24日 せい去、81才。

昭和56年1月24日 叙従5位、勲5等、雙光旭日章。

威で、私も金井先生の方法をお教えいただき、検討したのですが、金井方式を採用するには1000万円以上の設備が必要で、現在のブアマンズコンピュータシステムでは高嶺の花です。そこで簡略化手法を考え出しました。その要点は分布図を1枚の表(マトリックス)と考えるものです。例えばタイプライターでタテ80行横120行位にわたってベター面に点を打ったものに神奈川県地図を重ねあわせませす。すると、各メッシュの中央附近に一致する点が必ずありますから、その点の位置をタテ、ヨコ軸の数値で記録します。すると各メッシュごとにxyの値が決りますから、プリンタのタブレットと紙送りをxyに読みかえし、先の登録データを読み取りつつ、記録のあったメッシュにはその情報の程度(先程の4段階)に合わせて記号をプリントして行けばよいこととなります。無論プリンタは後戻りできませんから、登録データをプリンタの打つ順序に並びかえておく必要がありますが、これはコンピュータがプログラムに従って自動的に行ってくれます。

出来上ったものは和名、学名、それに点があちこちに打たれた図1のようなものです。これを打ち出すのは1枚が30秒程度でできます。次に透明なシートに神奈川県地図にメッシュ区分を描きこんだものを用意し、これを先のドット図に重ね合せますと分布図の出

来上りです。ドット図には地図に合わせるためのトンボも打っておきますからこの作業は簡単です。これを重ね合せたままコピーすれば表紙のような分布図が出来上ります。透明シートの地図はまず普通の紙(トレーシング用紙でもよい)に描いておいて、ゼロックス等のオーバーヘッドプロジェクタ用の透明用紙にコピーすればこれも簡単にできます。

金井方式では地図そのものもプログラムによりxyプロッタを使って1枚ずつ描くのでかなり時間がかかりますが、今度作成した方式(F L K方式とでもしましょう)は、地図は最初に1枚作ればよく、コンピュータからはドットだけを打つので時間が速く、しかも地図にはいくらかでも手をかけて、高度別にアミをかけるとか色々細工が可能です。

F L K方式はまだつくってから時間が浅いので問題点も多いのですが、更に改良すれば充分実用化できると思われます。只今、データのインプットは夜なべ仕事でやっておりますが、近く博物館でもコンピュータが買えそうなので能率は向上しそうです。また会員でマイクロコンピュータをお持ちの方、特にPC8001をお持ちの方にはプログラムをお頒けしますので作業を手伝っていただければ幸いです。40才をすぎるとコンピュータなど無理だともいわれましたが割合簡単なようです。皆様もいかがですか。(大場達之)

f20913

	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	
	HAT	HAT	HAT	HAT	HAT	OY	ISE	ISE	ISE	HI-	HI-	HI-	NIN	QIS	CH-	CH-	SAM	FU-	FU-	FU-	EN	
	-1	-2	-3	-4	-5		-1	-2	-3	1	2	3			1	2		1	2	3		
チヨウセンカ ^o リヤス	S	S	.	.	.	S	.
ミノホ ^o ロ
ミノホ ^o ロモト ^o キ
ウサキ ^o ノオ
アシカキ	S	.	.	S	S	S	S	S	.
エゾ ^o ノサヤヌカク ^o サ
サヤヌカク ^o サ	S	S	.	.	.	S	S	S	S	S	S	S	.
アセ ^o カ ^o ヤ
ハリノホ

秦野市馬場坂の植物

秦野市の西、菖蒲の四十八瀬川べりには、甘柿橋というバス停がある。このバス停から河岸段丘にある小学校までの道路は、車一台がやっとおれるくらいのせまい急な坂道である。毎日の通勤にも途中何回か休まなければならない。この坂が馬場坂である。ここを先生も生徒も毎日登り下りする。

登り口は畑の切り通しになっている。わずか300mほどの坂ではあるが、途中には小さな社や雑木林がある。また2,3軒の人家もある。歩けばわずか10分足らずの馬場坂ではあるが通勤・通学で皆に親しまれた坂である。この馬場坂の路傍に四季おりおりちがった顔を見せてくれる植物を少し紹介してみたい。

春も早い2月末、風はまだつめたい。子供達は学校の行き帰り、もうつくしやスマレを摘みとってくる。フキノトウが顔を出しオオイヌノフグリが青むらさきの花をつける。春はこの土手の日だまりからはじまる。つづいて、ハコベ、オランダミミナグサがかわいい白い花をつける。

3月末から4月の桜の時期ともなれば、いろいろな花が咲き出す。日だまりのタチツボスミレ、ハハコグサ、カントウタンポポ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ、スイバなどをはじめ、少し日当りの悪い湿ったところには、カテンソウやセントウソウ、オドリコソウ、ムラサキケマン、ジロボウエンゴサク、ヒメウズ、ヤエムグラが咲き、道端は草の緑でおおわれてしまう。

雑木林のふちでは、アケビ、ミツバアケビがすでに紫の花をつけ、ヤマブキが黄色い花弁を散らしている。ロームのはだけている道沿い斜面の足元には、やわらかな土が落ちて積り、ウマノアシガタ、キツネノボタン、ツルカノコソウ、クサノオウ、タネツケバナ、フタリシズカ、オオジシバリも見られる。人家の生垣の下にはカキドオシ、ホトケノザ、オドリコソウが生垣をふちどっている。

さらに、陽気も大分暖かくなった5月ともなれば、土手にはシロツメクサが咲き、ヒメジョオン、ハルジオン、コウゾリナ、ハルノノゲン、キツネアザミ、ノアザミが茎を伸ばし花をつけはじめる。この頃になる

